

富士見高原療養所と野麦峠を訪ねて

結核予防会

顧問 島尾 忠男



今回は結核縁の地として、長野県にある富士見高原療養所と野麦峠を訪ねた。前者のあった場所には、長野県厚生農業協同組合連合会（以下厚生連）の富士見高原病院が設置されており、その一部に旧療養所の建物の一部が資料館として保存されている。後者には「野麦峠の館」という立派な施設が造られ、一般公開されており、このほかに松本市内の「松本市歴史の里」には、峠を下り長野県側の川浦にあった工女宿「宝来屋」を移築した建物が展示されている。いずれも結核が不治の病であった時代と関連している。

富士見高原療養所

その歴史は大正末期に遡り、富士見集落有志の総合病院開設の提唱に呼応して、「株式会社 富士見高原療養所」が設立され、当時慶応大学内科助教授をしておられた正木俊二先生が院長として、各科の医師を伴い大正15年12月に赴任したことから始まるが、経営に行き詰まり、1年半後の昭和3年6月に解散。しかし、



旧療養所建物の前で。
本会竹下理事（左）と筆者（中央）、荒川じんぺい資料館館長（右）

この地を愛し、ここが結核患者のサナトリウム療法に向いていると考えた正木院長は、昭和3年7月に、「株式会社 富士見高原日光療養所」を個人経営で開設、正木先生が俳人で小説家でもあったことから、多くの有名人や文化人が入院した。この病院の名前は、久米正雄の小説「月よりの使者」が映画化され、そのロケ地に使われたことや、堀辰雄の「風立ちぬ」の舞台にもなったことで、全国に知られるようになった。昭和11年2月には、文芸春秋社社長で作家の菊池寛らの勧めもあって、「財団法人 富士見高原療養所」に組織を変更し、最盛時には傾斜した丘に200床近い病床が配置され、南には南アルプス、東には八ヶ岳、東南方には空気の澄んだ日には富士山が見える、スイスのダボスとも対比される景勝の高原療養所として、昭和30年代まで結核治療の一翼を担って活躍してきた。

ここの特色の一つは、堀辰雄、竹久夢二、藤沢桓夫、横溝正史、呉清源など著名人の入院患者が多かったことで、昭和10年代の入院料が安い部屋でも1日2円、



初代院長 正木俊二愛用の品々の展示と来館者を迎える記帳台（中央）



旧療養所を再現したパノラマ模型

高い部屋は20円もしたようで、庶民の患者には軒が高かったようである。

結核の急速な減少に伴う経営転換の波に対応して、昭和50年秋からは長野県厚生連との業務連携が図られ、施設名も富士見高原病院に変更、昭和55年12月31日で富士見高原病院を閉鎖し、昭和56年1月1日からは長野県厚生連の富士見高原病院となり、本年4月からはJA長野厚生連富士見高原医療福祉センターとして、地域と密着して「揺り籠から看取りまで」の医療と福祉を提供することを使命として活躍中である。

まだ残っている木造の旧病棟の一部を利用して、5室の展示室が設置され、初代正木院長の愛用品や入所



療養所が舞台になった映画は多く、その映画スナップやポスター類の展示

台帳、旧病室の状況、入院した有名人の資料、結核の歴史と現状等が展示されている。私事にわたるが、数年前に訪問した時には、入所台帳を閲覧でき、筆者の義理の兄が昭和17年に入院し、軽快退院した記録を見ることができたが、今回は紙質が劣化し、触ると崩れる危険があるとのことで、入所台帳の閲覧はできなかった。

現在資料室がある旧病棟を壊してそこに新病棟を建設する計画があるとのことで、その後展示室を維持できるか否かはわからない旨、資料館の荒川じんぺい館長のお話であったが、何らかの形で展示室が保持されることを切に願う次第である。その場合には、現在



歴史を伝える写真や品々の展示



入院していた堀辰雄等、文学者や著名関連の展示



荒川じんべい館長（左）の説明を受ける筆者（右）



工女宿「宝来屋」の外観（松本市歴史の里）



「宝来屋」室内の様子（松本市歴史の里）

第5室に展示されている結核の歴史と現状については、最も新しい現状の展示が行えるよう、「明治村」方式で本会が支援することも検討されてよいであろう。

野麦峠

徳川幕府が倒れ、明治時代に入って日本が目指したのは国の近代化で、欧米諸国に追い着けをスローガンに富国強兵政策が推進された。その中で、産業の近代化が図られ、輸出で外貨を獲得する中心となったのが、生糸であった。全国各地に製糸工場が作られ、当時は小学校6年の義務教育を終わったばかりの若い工女が地元の長野県だけでなく、隣の岐阜県や山梨県からも集められて、糸を紡ぐ作業に従事した。その実態を詳しく調査してまとめたのが長野県生まれの山本茂美氏で、氏の著作「あゝ野麦峠」で工女の作業や賃金の実態が明らかにされ、その中の飛騨出身の工女政井みねの話が映画化されて、野麦峠の名が世に知られることになった。

松本から上高地方向へ国道158号線を行き、途中県道26号線へ、さらに奈川で県道39号線に入りしばらくすると登り道になり、つづら折りを繰り返して、乗鞍岳が間近に見える野麦峠（1672m）に到達する。飛騨との国境で、「野麦峠の館」のある場所は現在では岐阜県高山市に所属している。

現在野麦峠には「お助け小屋」と「野麦峠の館」、それに政井みねを背負った兄の像がある。「野麦峠の館」は、3階建ての立派な展示館で、明治時代の職（杣仕事、蚕飼いと機織機）、食、運搬具、それに日本全国の主な峠とその解説が展示されている。大型スクリーンで、野麦峠の四季や女工の体験談などを学べる設備もある。

政井みねは岐阜古川出身の工女で、毎年3月から12月まで岡谷の製糸工場で働いたので、2月には飛騨から信濃へ、12月には逆に信濃から飛騨へと、仲